河は呼んでいるか　（河川と建築の物語）

宇塚　幸生

「川の手事務所」に勤務

平成の頃、都市再生機構の出先機関に３年ほど勤務した経験がある。日暮里に拠点をもつ「東京川の手事務所」という職場で 30 人ほどのスタッフで東京都北区、足立区、荒川区の隅田川沿いの開発を手掛けていた。

隅田川は荒川から分離し東京下町を流れており度重なる水害から守るため、岩淵水門から荒川放水路（現荒川）に流路を変えており、下流では都市河川として残されている。山の手という言葉はよく聞くが「川の手」という名称も珍しかった。

↑出典：都市整備公団（現 UR 都市再生機構）

この事務所では墨田川沿いの南千住地区、豊島八丁目、新田地区などで住宅の開発で、行政や都の河川局や国の荒川下流事務所（通称「あらげ」）などとの打合わせを手がけてきた。ある時、所長の提案で隅田川沿川を水から見てみようと浅草から上流の岩淵水門まで至り普段経験できないツアーを体験した。ここで学んだのは「川の手」を読み解くこと、そしてこの稿も題して「河は呼んでいるか」としてそれに続くプロジェクトの成果をまとめてみた。

ロンドンの「テムズ川」河畔

それから川巡りが始まった。その年の夏にロンドンのテムズ川を訪れた。市内観光のあと鉄道でグリニッジ天文台を見学し、その帰りに観光船でロンドン中心部に戻るミニクルーズを楽しんだ。テムズ川は市内にも船がさかのぼるほどの大河で、河岸にはドックズランド、テート美術館などが広がる河川港である。途中ロンドンブリッジの開閉を写真に収めたり、都心で船を降り劇場街に向かった楽しい思い出である。また、リトルベニス地区では長さ10m幅1.8mほどのナローボートに乗船し運河めぐりもした。

パリの「セーヌ川」河畔

パリを訪ねた際はセーヌの流れも経験した。パリ市内では川幅が150m程度となっており、川岸にはノートルダム寺院をはじめエッフェル塔やオルセー美術館など文化施設が並ぶ。市内には特徴的なあ20の橋がありその一つ一つが年代や構造も異なる個性的な橋であり名前がついている。「アレサンドロ３世橋」やシャンソンにも出てくる新橋「ポンヌフ」と呼ばれる石橋などである。美術館をつなぐ歩行者専用橋もあり、地下鉄が渡る橋もありパリの風情に彩りを添えている。2025年のパリ五輪では選手の入場行進は船に乗って行われ観客は河岸や橋の上からそれを眺めるといういきな演出が行われるのも楽しみである。

ハンガリー、ブダペストの「ドナウ川」河畔

2023年夏の世界陸上が開催されたブダペストはその歴史市街が世界遺産に登録されている。ドナウ川をはさんで西のブダ地区は王宮などの歴史地区、東側のペスト（ペシュト）地区はオペラ座や市電、地下鉄そして温泉施設のある近代の街である。それらをつなぐ「くさり橋」は重厚な鋼鉄製でこの街の歴史を象徴している。

USAポートランドの「ウィラメット川」河畔

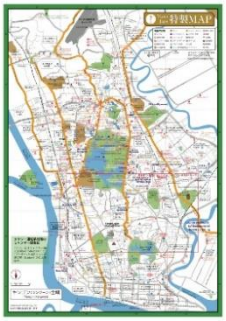
「歩いて楽しい街」として訪れた米国オレゴン州ポートランドは地域の豊かな農産物や海の幸で全米一番住みやすい街として知られている。街中にはトラムが走り周り、中央を流れるウィラメット河畔にはスポーツ施設も並び岸辺はランニングする姿が見られる健康的な町でありスポーツの国際大会や全米大会も開催されている。川幅数百mを渡る珍しい垂直昇降開閉式のホーソーン橋がある。

ロンドンのテムズ川／パリのセーヌ川／ドナウ川のくさり橋／ポートランドのウィラメット川

ミャンマーでは「ヤンゴン川」河畔

その後担当したミャンマーでは、人口500万人を超える第一の都市ヤンゴンに建築技術の交流で何回も訪れた。旧市街は英国統治時代の都市計画で整備され伝統的建物や高層ビルが広がっている。一方、ヤンゴン川には橋が少ないため、西側の対岸には自然の緑が残されている。従って西岸の町から市内に通勤するには、小さなフェリーや渡し船によって往復する風景が見られる。

いくつかの海外の河川を巡り、川にはその歴史、文化、暮しの縮図を見せてくれる。川はその沿川で創る建築へのアプロ―チを教えてくれた。



ヤンゴン市地図／西部を流れるヤンゴン川／ヤンゴン川の渡し船

ふたたび「川の手」墨田川上流へ

さて、このような川との対話をしているうちに、再び「川の手」のプロジェクトが舞い込んだ。北区豊島四丁目には工場跡地でしばらく手つかずの4ヘクタールの敷地があった。土壌汚染の対応をしながら商業と住宅を区分けし住宅を配置し、合わせて墨田川スーパー堤防を整備し緩やかな傾斜で川に降りて行けるような計画である。ＵＲの豊島五丁目団地から続く水辺テラスでは犬の散歩や岸辺をランニングする人々が行き交う。また街区の端部に共用施設として公園、街区の区分けとして貫通通路も備えたプロジェクトであった。

豊島四丁目模型／豊島四丁目開発の竣工写真／墨田川のスーパー堤防

「川の手下流」墨田川湾口で

その一方で、川沿いのプロジェクトを続ける中、集合住宅への視察や提言、国際会議等で両者の交流を広げてきたミャンマー建設省の方々を案内した。2015年、一行は晴海トリトンタワー内にある東京湾岸の模型（1／1000）を見学し、隅田川下流の河口と将来五輪選手村となる晴海五丁目付近を見学した。

写真で白くスポットライトが当たっている区画は晴海三丁目西再開発地区で、墨田川下流の「朝潮運河」に面して4.3haの計画地に3棟の超高層住宅などの計画地である。

晴海三丁目再開発の工事現場も見学した。従前から倉庫等の物流基地であったここで、運河沿いに人工地盤を設け緑化し、緑あふれる風通しの良い超高層群を実現し、海を感じる街が竣工した。

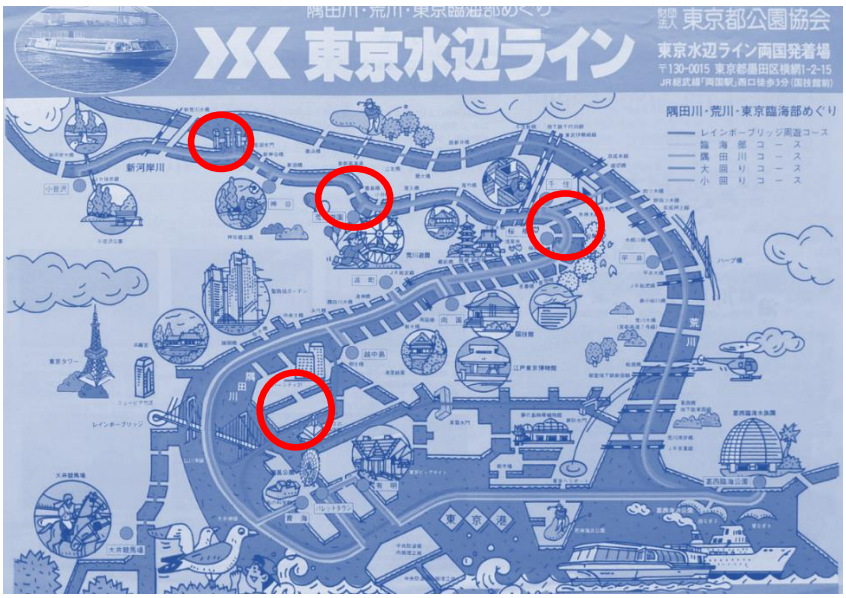
その後地域の医療施設も竣工し「水辺に近い複合都市」として完成した。隣接地では東京五輪選手村も充実し人口数万人規模の「新・晴海島」が実現しようとしている。

晴海３棟の近景と晴海運河からの遠景

「川の手」の集大成へ

「川の手事務所」での勤務から数えて３０年、終始川沿いの開発に携わってきた。その集大成として、ミャンマーの方々を招き駐日大使も交えて竹芝埠頭から東京湾をクルーズした思い出もある。船の名は「シンフォニー」であり、ランチとともに東京港内を回遊した。川から眺め、水から眺め、そして海から眺める東京の「新しい景色」は一つの交響曲（シンフォニー）のような絶景であった。下の地図中に著した場所は、上流から、岩淵ゲート、豊島四丁目開発、南千住（川の手事務所時代）そして晴海三丁目地区である。

1957 年のフランス映画で日本でもその主題歌で有名になった「河は呼んでいる」にちなんで、文字通りの「河は呼んでいるか」プロジェクトの数々であった。



（本稿は「二都物語研究会」予定（於：日本橋「アートスペース兜座」）の要約です）

参考文献：パリとセーヌ川　　橋と水辺の物語　小倉孝誠　中公新書 2008
静かに流れよテムズ川　　木村治美　　文春文庫 1981